

プロポーズドセッション | WUI火災に対応する水文・水資源分野の新展開

■ 2026年9月14日(月) 9:30 ~ 10:30 | 2Fホール(2F)

[OS-01] WUI火災に対応する水文・水資源分野の新展開

9:30 ~ 9:40

[OS-01-02] 日本国内の林野火災の発生傾向とWUI火災事例

*峠 嘉哉¹ (1. 千葉大学)

9:40 ~ 9:55

[OS-01-01] 人工衛星データを活用した山林火災の延焼速度の推定

*岩見 達也¹ (1. 国土技術政策総合研究所)

9:55 ~ 10:10

[OS-01-03] 無降雨日の連続時における火災発生リスクのあるスギ林面積の拡大速度の推定

*玉井 幸治¹ (1. 森林総合研究所)

10:10 ~ 10:20

[OS-01-04] 大船渡市林野火災被害地近郊の未被害のスギ林と落葉広葉樹林における林床可燃物量

*吉藤 奈津子¹、小南 裕志¹、寺井 水萌¹、平田 晶子²、岩崎 健太³ (1. 森林総合研究所 森林防災研究領域、2. 森林総合研究所 生物多様性・気候変動研究拠点、3. 森林総合研究所 森林災害・被害研究拠点)

10:20 ~ 10:30

総合討論

プロポーズドセッション | WUI火災に対応する水文・水資源分野の新展開

2026年9月14日(月) 9:30 ~ 10:30 | 2Fホール(2F)

[OS-01] WUI火災に対応する水文・水資源分野の新展開

9:30 ~ 9:40

[OS-01-02] 日本国内の林野火災の発生傾向とWUI火災事例

*峠 嘉哉¹ (1. 千葉大学)

キーワード：林野火災、WUI火災、二変量極端火災特性、Mann-Kendall検定、Sentinel-2

2025年以降，日本国内で複数の大規模林野火災が発生し，その一部は居住地に延焼し建物火災に拡大した．林野と居住地の近接領域で生じる火災をWUI火災と呼ぶが，日本国内でも懸念が大きいことが示された．そのため，本発表では日本国内で生じている計5万件の林野火災事例の生起状況を調べたTouge et al. (2024)の一部を紹介し，その上で2025年に生じたWUI火災事例を事例として示す．最後に，Shi and Touge et al. (2023)における極端火災の定義方法について紹介する．

プロポーズドセッション | WUI火災に対応する水文・水資源分野の新展開

2026年9月14日(月) 9:30 ~ 10:30 | 2Fホール(2F)

[OS-01] WUI火災に対応する水文・水資源分野の新展開

9:40 ~ 9:55

[OS-01-01] 人工衛星データを活用した山林火災の延焼速度の推定

*岩見 達也¹ (1. 国土技術政策総合研究所)

キーワード：大船渡市火災、大槌町火災、WUI火災、延焼動態

近年、地球規模で森林火災、林野火災、そしてWUI（Wildland-Urban Interface）火災の被害が深刻化しており、甚大な人的被害や建物被害が生じるケースが発生している。一方で、日本では数年前まで顕著な山林火災の被害は稀で、WUI火災の危険性について話題に上ることは少なかった。そのような状況の中、2025年2月に岩手県大船渡市で大規模火災が発生し、3,370haの山林と226棟の建物が焼損した。そして2026年4月には岩手県大槌町で1633ha（精査中）の山林が焼損する大規模火災が発生した。その間にも岡山市、今治市、上野原市など、数百haに及ぶ大規模な山林火災が相次いでいる。

WUI火災のリスクを適正に評価するためには、山林の燃焼性状の把握が必要となる。海外では山林火災に燃焼性状を対象とした研究が活発に行われているが、そのまま日本の山林に適用できるわけではなく、知見が不足している状況である。そこで、2025年2月の大船渡市の火災及び2026年4月の大槌町の火災を対象に、人工衛星による観測データを用いて、延焼動態（燃焼範囲や延焼速度の時刻歴）を分析した結果を報告する。